

手——周郷 博先生に

田村さと子

「林に太陽が巣ごもって

太陽の卵がいくつも生まれたから

見にいってくるよ」

とでかけられてから

ずいぶん お帰りが遅いですね

スケッチに夢中になっていらっしやるのでしょうか

みどり道で迷っていらっしやるのでしょうか

キャンバスが重くはありませんか

まだ春には少し間があるけれど

ひなにかえった太陽が

湿りけをとりもどしはじめた大地を

ういういしくみつめている午後

ローソクを灯して

先生がお弾きになった

オルガンのテープを流していると

キイを押すちいさな手が

炎の奥に見え隠れしています

さわらびのように跪いている

お祈りの姿が

賛美歌といっしょに立ちのぼります

こうして

人生いのちにゆき悩むときには いつも

さしのべてくださる

あのつつましくあたたかな手を感じるのです